

共に生きるために



2024^{年度}事業報告書

April 1, 2024 - March 31, 2025



共に生きるために



ごあいさつ

2024年度、猛暑や季節外れの気候に苦しめられたのはアジア学院だけではありませんでした。今年度は世界中で年間を通じて高温、干ばつ、森林火災、大雨、洪水などの異常気象が観測され、それらに伴って自然や生態系の破壊が進みました。当然人々の暮らしは脅かされ、政情が不安定になり、テロや紛争も世界中で勃発しました。その余波は物価高騰などの形で私たちの日々の生活にも影響し、私たちが住む場所はOne Planet（ひとつの地球）なのだというのをより強く実感した1年でした。

その感覚は、世界の各地から集められた者たちが生活を共にし、自然と協働するアジア学院では尚一層強くなります。2024年度の学生数は例年よりやや少なめでしたが、その一人一人は、最低限の生活や人権が保障されない深刻な状況にある地域を代表していました。私たちはますます想像力を働かせて、このOne Planetに生きる者同士、互いを深く思いやり、共に解決の道筋を真剣に見い出していかなければならないと思わない日はありませんでした。

この思いはまた、今年度ミャンマー、フィリピンの卒業生2名が職員として加わったこと、3名の職員がザンビア、マラウイ、シエラレオネ、リベリア、インドの5か国を訪問し、計55人の卒業生と現地で会い、各地域の課題を共有したことによってさらに強められました。世界各地で起きている問

題は、生態系の問題と深くつながっていて、それはつまり、一人ひとりのいのちとつながっていることを私たちは再認識しました。

今年度、新しい教務主任によって進められた教育的アプローチは、こうした現実に対応していくリーダーの育成に大いに貢献しました。学生たちは、自己を内省し自分の考えを明確にし、深め、広げる楽しさと喜びを経験し、自身の尊厳の尊さ、また成長の可能性に目覚めました。それが、変わりゆく状況においてもあきらめずに正しく人々を導いていく基礎になっていくことは間違いありません。

2024年度のこうした豊かな学びが可能になったのは、神様の恵みと皆様からのご厚意があったからに他なりません。ぜひこの報告書のページをめくって、この1年のその他の数々の実りを共に味わい、分かち合っていただけたらと思います。



山本 俊正
理事長



荒川 朋子
校長（～2025年3月）



コミュニティ全体での田植え (6月)

目次

2024 年度ハイライト	4	サポーターと共に	
農村指導者を育てる - 教務課 教務、学生募集		- 募金・国内事業課 支援者サポート、販売、国際関係課	
目には見えない成長のプロセス	6	北米で育む新たなつながり	16
国境を越える学生と日本人学生	8	つながりと共感でつくる未来	17
		「食べて」支える持続可能な学び	
食べものと命を育む - フードライフ課		卒業生とのつながり - 教務課 卒業生アウトリーチ	
環境と向き合い、未来を育む	10	卒業生を訪ねる	18
実りの循環と創意あふれる食卓	11		
学びのコミュニティ - 教務課 共同体生活		会計報告	20
祈りと賛美が結ぶもの	12	農村指導者研修プログラム・カリキュラム	22
楽ではないが温かい	13	コミュニティメンバー 一覧	23
開かれた学びの場		2024 年度 卒業生	24
- 募金・国内事業課 オープン・ラーニング・プログラム			
コンポストのように	14		

2024年度ハイライト



海外とのつながり強化

2024年度は4つの海外出張があり、6名の職員が計6か国を訪問し、支援者や卒業生に会うことができました。

ザンビア、マラウイ（8月）

ECHOでの会議と同時開催の卒業生の集まりに参加（アジア学院北米後援会（AFARI）主催）、卒業生訪問（p.18に詳細）

タイ（9月）

ECHO Asia Impact Centerにおける“Community Seed Bank Symposium”に参加

アメリカ（9-10月）

支援者訪問、支援者の農場でのイベント参加“ARI for a Day”（p.17に詳細）

（写真上）アメリカ支援者訪問

（写真左下）タイのECHOプログラムに参加するアジア学院職員

（写真右下）マラウイでの卒業生訪問



卒業式後の茶話会にて作文を披露する成里明さん

首都圏ホームステイ再開

日本基督教団全国婦人会連合世界教会運動委員会主催の、首都圏でのホームステイプログラムが5年ぶりに1泊で開催。

インド東北部の学生ムズィナルを受け入れたホストファミリーの小学3年生の横田成里明（なりあ）さんの作文「インドのなっ豆」（3600字）が、全国小中学生作文コンクールで入賞（光村印刷賞）しました。



贈呈された浴衣を着る学生たちと日本バプテスト同盟全国女性会の方々

支援者を迎えた日本文化デー

ホームステイプログラムに加え、コロナ後に対面形式で再開されたのが日本バプテスト同盟全国女性会による浴衣贈呈プログラムでした。地元「なす謡友会」と「津軽会」による民謡と三味線の演奏も加わり、賑やかな日本文化デーとなりました。学院内の日本人も、生花、おりがみ、よさこい踊りを紹介し、国境を越えた温かな文化交流のひとつを分かち合いました。



助成金でより豊かな活動が実現

国内外の様々な団体の支援により、授業、職員研修の充実、プログラムの増設が実現しました。また、職員の派遣、免許取得費用の援助などで学院の運営基盤が強化されました。

アメリカ

スプラシオ財団－非暴力コミュニケーション、コーチング（授業）

アメリカ福音ルーテル教会－非暴力コミュニケーション、コーチング（職員研修）／新職員1名の派遣

パールシティ・コミュニティ教会－職員3名の中型免許取得

カナダ

カナダ合同教会－マイクロバス購入

日本

那須塩原市森林・林業普及啓発活動補助金－ちよこっとフォレスト（オープン・ラーニング・プログラム）



（写真上）ちよこっとフォレストのツリークライミング

（写真下）非暴力コミュニケーション講師の西東万里さん（左）、栗山のぞみさん（右）



訃報 佐藤喜作氏

秋田県にかほ市の仁賀保町農協代表理事組合長を長く勤め、日本有機農業研究会理事長も務めた佐藤喜作氏が、5月に逝去されました。毎年夏期に実施する農村地域研修旅行のにかほ市訪問で長年お世話になりました。



2人の卒業生を 農場職員として採用

兼ねてから募集していた農場職員に、卒業生のニコラス・タフヤン（写真左、フィリピン出身、2008年卒業生、2015年研究科生）とソー・マナー・シェイ（写真右、ミャンマー出身、2010年卒業生）が加わりました。



50周年記念・紀要 ユオードー 刊行

50周年を記念して編集した紀要ユオードー（Vol.7、2024年度版）には、50周年記念式典記念講演、アジア学院の農場のあゆみ、食育と持続可能な食卓（アジア学院のキッチンと食堂）などを収録。

農村指導者を育てる

教務課 教務、学生募集



目には見えない 成長のプロセス

農村指導者養成プログラム報告



阿部・チャタジー・マノシ
教務主任

神 さまの恵みと多くの方々のご支援により、13 カ国 20 名の新卒業生がアジア学院での 2024 年度研修プログラムを無事修了いたしました。新しい教務主任に移行する中、この成果を達成することができたことに、心から感謝申し上げます。

自らの人生の専門家を育てる

今年の大きな目標は、学生を「自らの人生の専門家」として強調していくこと

でした。学生たちは、牧師、教育者、農家、映画製作者、ソーシャルワーカーなど、多様な背景をもっています。彼らの持つ豊かな経験を引き出すために、私たちは文章作成プログラムを再構築し、既存の 3 部構成の振り返りレポートを、「食料」「気候変動の詩」「私の描くコミュニティのビジョン」などをテーマにした月ごとの文章課題に変更しました。

また、月 1 回の「振り返りと感謝の時間」も導入しました。最初の月は職員が主導し、その後は学生 2 人が交代で進



(写真左) 西日本研修旅行 - 愛農学園農業高校 (三重県・11月)

(写真上) バイオガスワークショップ (10月)

“



ラー・ティ・ンギン
(ベトナム)

今日、私たちはテクノロジーに大きく依存しているが、若い世代の多くは心の底で虚無感を感じている。テクノロジーには英知がなく、私たちの精神を徐々に消耗させていく。アジア学院では、私たち学生は何でも手作業で行うことを学ぶ。そんな中で、私は家を建て、服を作り、日常生活で必要なものを素晴らしい技術と美しさで作り上げてきた私たちの祖先が、どれほどの知恵を持っていたか気付いた。彼らはこうした営みを通じて、本当に心の言葉を理解していたのだ。

行役を務めました。祈ったり、大切な人に感謝したり、人知れず良いことを行ったことについて分かちあったり、非暴力コミュニケーションの手法を用いて感情とニーズの理解を深めたりするなど、ユニークなアプローチを試しました。

農場での実習にも変化がありました。プラスチックの使用を減らし、竹のようにこの地域で手に入る材料を使うことで持続可能性を高めました。学生たちは農村での知識を活かして支柱やフレームを竹で作成し、豊かな収穫に貢献しました。

畜産部門では、アジア学院の平飼養鶏における産卵率の変動を分析し、温度、飼料、環境などの影響を探りました。これらの経験は、地域資源がいかに経済的な自立と主権をもたらすかを強く印象づけました。

例年お世話になっている外部講師に加え、新たな講師陣も迎えました。「農家による自然再生」(トニー・リナウド氏)、「種子保存の課題」(パトリック・トレイル氏)、「低コスト農業支援技術」(ネッド・ストラー氏)、「コーチング」(森川有

理氏)、非暴力コミュニケーション(西東万里氏、栗山のぞみ氏)、「エコロジー教育」(阿部・チャタジー・公子氏)などがその代表例です。

つながりから生まれる変容

見学研修や研修旅行では、9つの都道府県を訪れました。様々な方の経験から学びましたが、中には有機農業を50年続けている有機農家や、足尾銅山の公害反対を長年にわたり訴え続けている方も



カデック・アグス・マハディパ（インドネシア）

尊厳とは何かを理解することは、特に人道的な運動に携わる際には重要だ。なぜなら、それは抑圧されている人々の気持ちを理解するのに役立つからだ。また、尊厳とは何かを理解することができれば、どの集団が抑圧されているかを特定し、理解する助けにもなる。



いました。学生からは、「このような研修旅行はどのように継続されるのか、彼らに後継者はいるのか」という切実な懸念が挙げられました。また、こうした訪問だけでなく、以前のように十分な数のホームステイ先を確保することも課題となっています。

しかしながら、アジア学院のカリキュラムを継続させるつながりの素晴らしさもまた、私たちは目の当たりにしました。ホストファミリーのお子さんが、学生の一人が一泊滞在をしたことで深く影

響を受け、その体験を書いた作文が大きな賞を受賞したことは、私たち全員に感動を与えてくれました。それは、人と人とのつながりの力を示す雄弁な証言であり、アジア学院というコミュニティに集うこの機会がいかに貴重なものであるかを思い起こさせました。

発酵が促す地域社会の繁栄

見学研修先のひとつであるドンカメの小久保行雄さんは、「生ゴミを有用な堆

肥に変え、時間をかけて良い土壌を作り上げる上で実際の仕事をするのは、目には見えないが強力な微生物である」と言われました。農村地域開発の全体像から見れば、私たちの卒業生は小さく、ほとんど目に見えない存在であることは事実です。そしてまた、私たちが教育に費やす多くの努力は、卒業生が地域社会に戻ったあとの粘り強い行動なしには、現実には「生ゴミ」でしかないのかもしれませんが。しかし喜ばしいことに、2024年度卒業生は、アジア学院在学中にこの「発



ドン・バチボンゲ（コンゴ民主共和国）

（私の描くコミュニティのビジョン）

コミュニティが霊的に一つとなり、子どもたちが走り回り、サッカーやその他の思いもよらないような遊びに興じるのが見える。コミュニティが集うざわめきが聞こえ、収穫期の農民たちの笑顔もみられる。私が創りたいと願うコミュニティの姿と音が私の心を満たす。朝日が新しい始まりの光と希望をもたらすように、私のリーダーシップが、希望と回復力、そしてコミュニティのすべての人々の心に深い帰属意識と目的意識をもたらすようにしたい。

酵」のプロセスが始まった、愛と優しさに満ちたクラスでした。近い将来、私たちは間違いなく彼らの肥沃な土壌、すなわち繁栄する地域社会を目にすることになるだろうと信じています。

（写真）

- ① 西日本研修旅行 - ほっとはうす（熊本県水俣市・11月）
- ② 農村地域研修旅行 - 自然農園ウレシパモシリ（岩手県・8月）
- ③ 稲刈り（10月）



国境を越える学生と日本人学生

学生募集報告



篠田 快
学生募集

学生募集セクションでは、翌年度の学生の募集活動からビザ取得、渡航手配などを担当しています。2025年度の学生は、研究科生2名と本科生28名、計30名。出身国は17カ国に及ぶ学生たちを全員2025年3月中に来日させることができました。

この活動で特に課題となるのは、学生の旅路サポートと日本人学生の募集です。

各国の農村地域から日本への道のりは長く、困難を伴います。今年は内紛の影響で首都に出るのに隣国ルワンダとエチオピアを経由する他方法がない学生や、行政手続きの誤りで脱税者として登録されてしまい、出国直前にトラブルに見舞われる学生もいました。こうした困難を乗り越え、無事に30名全員をプログラム開始前に迎えられることに改めて深く感謝しています。

また、日本人学生の募集にも力を入れていきたいと思っています。国際協力や有機農業の学びに加え、世界各国から集まるクラスメートや1400人以上の卒業生がロールモデルとなり、「コミュニティ・リーダー」としての素養を育む環境が整っています。ぜひこの学びの機会を、周囲の皆さまにもご案内いただけたらと思います。

食べものと命を育む

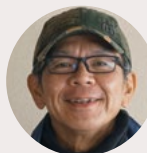
フードライフ課



竹を使って手作りした栽培用ネット

環境に向き合い、未来を育む

フードライフ課報告



櫻井 将伸
フードライフ課
農場長

農 という営みにおいて、有畜林複合有機農業という形態を有するアジア学院では、あらゆる環境の保全に努めつつ、コミュニティの必要を満たすのに十分な農産物の収穫を目指しています。

異常気象と農業への影響

しかし2024年度も、夏季の気温が異常なまでに上昇したことにより、とくに畑での野菜栽培は困難を極めました。通常、播種した後はしばらく灌水をしますが、日中の日差しが強すぎるため、土壌中の水分がすぐに蒸発し、うまく発芽が促進されませんでした。

ニンジン畑では7月から8月にかけて播種をするのですが、発芽不良がみられる畝には播種を何度も繰り返し、なんとか例年並の収量を得ることができました。

長引く残暑により、9月から10月にかけて播種する秋冬野菜への影響が大きく、冬越しの野菜の収量が落ち込みました。今後も温暖化基調にある状況の中で最適な野菜の播種時期について検討を加えたいと考えています。

持続可能な農業資材の選択と実践

2024年度の学生は、自分たちの実習農場において、プラスチック製品の使用

を極力避けて栽培をする取り組みをしました。プラスチック資材を購入し、栽培が終了したら安易に捨ててしまうのではなく、身の周りにあり、かつ生物分解性を有する資材を使用することにしたのです。

通常であればキュウリやトマト、ニガウリ栽培時に使用するネットの使用を止め、その代わりに竹を切り出し、長く細断した上で格子状に編み込んだものを使用しました。この作業はかなり時間がかかるのですが、それでも学生たちは真摯に取り組み、農場の環境をいかに保全するかを考える契機になったと思います。

実りの循環と 創意あふれる食卓

FEAST（給食・食育）報告



金森 郁美
フードライフ課
FEAST（給食・食育）

四季折々にキャンパスの畑や果樹、家畜からもたらされる様々な食材を、余すことなく皆で喜んでいただく。そのことに情熱を注ぐ人が今年度はたくさんいたように感じました。

研究科生が作ったゴーヤ料理は苦みが抑えられ、多くのゴーヤ嫌いも食べられる一品となりました。学生が作ったセロリのペーストはパンや料理によく合い、生ではたくさん食べるのが難しいセロリの消費に一役買いました。生の果物としてだけでは食べきれない量が一度に実るビワや桑の実を、ジュースにしました。トマトの加工には多くの学生、ボランティア、職員が参加し、瓶詰め、ケチャップ、ドライ、冷凍といった形で無駄なく保存し、収穫期が過ぎた後も長く学院産のトマトを楽しむことができました。収穫感謝の日是多文化の料理はもちろんのこと、竹からカップやテーブルを手作りし、バナナの葉を盛り付けやブースの装飾に使うなど、自然のもの



のを存分に活用しました。個人プロジェクトとして廃油の石けん作りや豚脂のスモーク、帰国直前にしょうゆの仕込みに取り組む学生もいました。

皆の創意工夫がコイノニアの食卓を豊かにし、多くの人々を楽しませ、同時に各々の学びを深めていきました。

食堂で提供した総食数

38,253 食

主な食材の消費量

米 4,070 kg
小麦粉 307 kg
豚肉 805 kg
鶏肉 225 羽
卵 20,430 個
大豆油 92 ㍓

外部からの購入

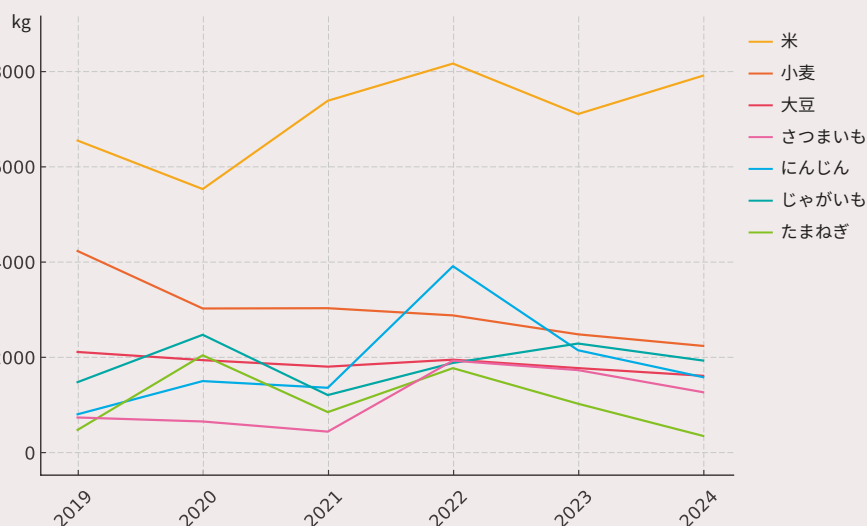
481,151 円
1 食あたり 12.6 円
(全国平均 263.8 円 *)

* 総務省家計調査(2024 年)に基づく4人世帯の1ヶ月の食費平均である 94,962 円を4で割り、さらに1ヶ月90 食として90で割った金額により算出。

畜産（ヤギ）の一時中止と再開

畜産担当の職員に欠員が出たため、2024 年度はヤギの飼育をしないこととし、2023 年度末までに飼育されていた10 数頭のヤギを手放しました。その後、2024 年度は新たに2 名のアジア学院卒業生を海外から職員として迎え入れることができたため、2025 年度からヤギの飼育を再開することにしました。2024 年11 月に妊娠が確認された2 頭のヤギを新規に購入したところ、2025 年3 月には5 頭の子ヤギが無事に生まれました。母ヤギから搾乳したミルクをアジア学院の食堂へ供給する予定です。

農産物上位7 品目の生産量推移



学びのコミュニティ

教務課 共同体生活



卒業式でゴスペルを披露するミンゴスメンバー

祈りと賛美が 結ぶもの

チャプレン報告



ジョナサン・マッカーリー
チャプレン・共同体生活

アジア学院の研修要綱には、学院に来るすべての人にとって、霊的な生活が原動力になるべきだとあります。霊的生活は、農作業、集会、食事を共にする時間など、神様が私たちに会い出される、あらゆる場面で経験し得るものです。

2024年、この霊的な生活は、日本の幅広い地域の人々に影響を与え、私たちも多くの刺激を受けました。

コミュニティのメンバーは、県内外の25の教会に招かれ、自らの体験談や、それぞれの人生やコミュニティにおける神様の働き、アジア学院の研修が世界に与える影響について話しました。学院メンバーと地元の人々が参加するゴスペル・クワイア、ミンゴスはNHKの地方放送で取り上げられました。また、年間を通して教会、刑務所、イベントなどで歌を通してイエス・キリストの愛の力を分かち合いました。

霊的な生命とは、私たちの心の奥底にあり、私たちが共に生きるために、それぞれの心から溢れ出て世界を祝福するものであることを、絶えず思い起こさせられた2024年でした。

アジア学院サンデーを行った教会

【栃木県】足利東教会、氏家教会、宇都宮上町教会、宇都宮教会、宇都宮東伝道所、小山教会、鹿沼教会、塩谷一粒教会、那須塩原教会、西那須野教会、益子教会、矢板教会、四條町教会（以下（教））、宇都宮松原教会、栃木教会（以下（キ））、鹿沼キリスト教会、高根沢キリスト教会【茨城県】（教）水海道教会、（教）竜ヶ崎教会【群馬県】（教）太田八幡教会、（教）渋川教会、（教）島村教会【東京都】（教）王子教会、（教）中目黒教会【神奈川県】横浜ユニオン教会

ミンゴスの活動（学院内のイベントを除く）

いわきゴスペルフェスティバル、小さな小さな夏祭り（川西地区を元気にする会）、YouTubeボランティアのしょうちゃんチャンネルにてライブ出演、塩谷一粒教会ゴスペルライブ、那須塩原市国際交流協会ワールドフェスティバル、那須塩原教会ゴスペル礼拝、NHKニュース番組とちぎ630出演、喜連川社会復帰促進センタークリスマス礼拝、フードバンク大田原サンタdeランクリスマスチャリティライブ

楽ではないが温かい

ボランティアコーディネート報告



江村 悠子

総務課
ボランティアコーディネーター



2024 年度ボランティアメンバー

日本、北米、欧州、アフリカの6か国から、のべ21名。今年度も実に個性豊かな長期ボランティアたちが集いました。得意なことも性格も様々です。料理、農業、IT、音楽、絵、ヘアメイク。周りを巻き込んで盛り上げたり、自分のペースで着実に仕事をこなしたり、人をケアしたり、コミュニティに大切な問いを投げかけたり。そうした役割の一つひとつが、2024年度のアジア学院コミュニティを形作ってくれました。

ここで朝から晩まで共に働いて暮らすことは、元気な姿も辛いときの姿も互いに見せることです。それは、何でも一人で自宅からできる今の社会において決して楽な選択肢ではありませんが、共に生きる温かさと挑戦にあふれています。そのことを、今年度のボランティアたちは身をもって教えてくれました。

2024 年度ボランティア参加人数

21 名

長期ボランティア

8 名

夏期インターン

27 名

通いボランティア

ボランティア派遣団体

【ドイツ】 連帯のための宣教会（EMS）、Social Peace Service Kassel, e.V. (SFD) 【米国】 Brethren Volunteer Service、合同メソジスト教会グローバル・ミッション・フェロー、キリスト教会共同世界宣教

インターン派遣団体

【米国】 ウェルズリー大学、セントオラフ大学、カレッジ・オブ・ジ・オーザークス 【日本】 摂南大学、梅光学院大学



丸山 結実子

長期ボランティア
国際基督教大学 学生

多様な背景を持つ他者と、お互いの悲しみや苦しみを抱きしめ理解し合うと同時に、希望、感謝、その時を笑い転げて生きる人々と出会ったことにより、生活の中の小さな出来事を喜び、会話の中で「楽しい」「面白い」を共有しながら生きていくことの大切さを学びました。自身の幸せの価値や喜びの定義が大きく揺らいだ経験でした。



ジョナサン・ペンツコファー

長期ボランティア
Social Peace Service Kassel, e.V. (ドイツ)

アジア学院に来た当初、私はやるべきことをすべて効率的にやりたと思っていました。わずか数日の滞在の後すぐ、草取りという、それを実行できそうもない作業に遭遇しました。日々、春のタマネギ畑で、絶え間なく生えてくる雑草と必死に戦い、雑草は決して生きることを諦めないのだと悟りました。このように、アジア学院で経験した考え方は、私の仕事に対する姿勢を大きく変えました。



ビジョン・アンダーソン（写真左）

インターン
ウェルズリー大学（アメリカ）

教育学の学生として、しばしば教え方や学び方について議論しますが、アジア学院では、何かを行う際にやり方が分からないことの不自由さを思い知らされました。一つ一つ、人に聞いて助けってもらうことは気が引けましたが、そのおかげでより忍耐強く、学ぶことに対してオープンになりました。この経験を通して、共感、粘り強い努力、学ぶ過程で生じることを受け止めることの大切さを学びました。

開かれた学びの場

募金・国内事業課 オープン・ラーニング・プログラム



今まで自分は義務というのは人間にはないと思っていたのですが、生きていくためには食べ物が必要で、その食べ物には犠牲がともなっているから命を大切にする義務があると言われていて、義務という言葉がとてもしっくりきました。(大学生・男性)

土と食べものは自分と繋がっていて、私たちは食べたものでできているという言葉が印象に残りました。(大学生・女性)

生きていく理由が
つまっている場所
(高校生・女性)

コンポストのように オープン・ラーニング・プログラム報告



山下 崇
募金・国内事業課長
教育プログラム・
那須セミナーハウス主事

2024年度は「土からの平和」をテーマにオープン・ラーニング・プログラム(OLP)を行いました。参加したほとんどの人はコンポストの土を触り、その熱や臭いを感じました。

土は生命集合体で、1gあたり数千種類、100億もの生命体がいると言われています。土の多様性には敵いませんが、今年度のOLPにも多様な人が参加しました。タイ、アメリカ、また7月に行わ

れた英国 United Society Partners in the Gospel (USPG) のプログラムでは世界7か国の人がアジア学院に集ってきました。また、子どもが参加できるキャンプも3回開催することができました。なかでも12月の年末には子どもたちの企画で、まさしく子どもによる子どものためのキャンプが行われました。

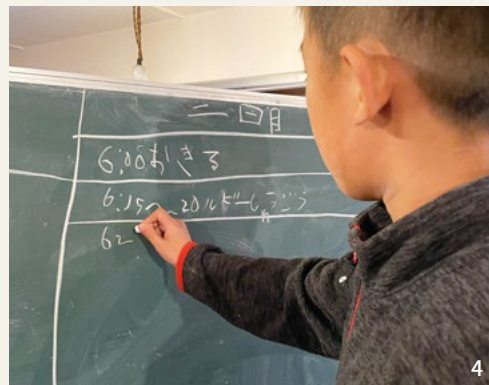
参加者同士、最初はドキドキワクワク緊張してプログラムを行います、いつ



2



3



4



5



6



9



10

(写真)

- ① United Society Partners in the Gospel
- ② 同志社大学国際居住研究会
- ③ イングリッシュ・ファーム・キャンプ
- ④ キッズキャンプ
- ⑤ カセサート大学
- ⑥ 聖心会
- ⑦ 筑波大学附属坂戸高校
- ⑧ 米国合同教会
- ⑨ ブラウンズフィールド
- ⑩ 国際基督教大学

就職活動や生活習慣がボロボロだったが、この経験を通して自分を取り戻すことができ、生き返った気分（大学生・女性）

自分に出来ること、考えるべきことは何かを改めて問われた気がします（一般・女性）

都市部の生活では感じられないような、自然、命、食、ゆったりさ、人の温かさや寛かさを感じられる場所。何かに疲れたり、せかせかしたり、生きるのが辛くなったりしたら、またここに来て、生きる上で大事なこれらのことをまた感じたいと思った。（大学生・男性）

の間にかコンポストの土のように熱気を帯びて混ざり合っていきます。

アジア学院に来て、多様な人と接し多様なのちに触れる経験をする。このことで、他者への共感を身をもって学ぶことができ、さらには平和へのステップになると信じています。

スタディキャンプ参加団体

【日本】神戸ユニオン教会、イングリッシュ・ファーム・キャンプ、ブラウンズフィールド、日本写真芸術専門学校、フェリス女学院大学、東京農業大学&カセサート大学（タイ）、国際基督教大学、筑波大学附属坂戸高校、国際基督教大学高校、恵泉女学園中学・高校、丸谷ファミリー、青山学院大学、自由の森学園高校、恵泉女学園大学、明治学院大学、東北学院大学、新島学園高校、草加教会、栃木県北教会合同デイキャンプ夏のパケーションバイブルスクール、学生キリスト教友愛会、ルーテル学院大学、同志社大学、立教大学、聖心女子大学、日本基督教団関東東区教師部研修会、青山学院初等部、日本ルーテル神学校、ウェル洋光台、佼成学園女子高等学校、ラウダート・シ・デスク、キッズキャンプ、星の杜学園中学校、日本基督教団農村伝道に関する協議会、京都精華大学、学生YMCA、パーマカルチャーデザインキャンプ、イエズス会社会使徒職委員会

【英国】United Society Partners in the Gospel 【韓国】韓国メソジスト教会

【米国】クレアモント大学、米国合同教会

サポーターと共に

募金・国内事業課 支援者サポート、販売、国際関係課



(写真)

- ① オーナー夫妻主催のイベントでラジオ体操を教わる参加者たち
- ② クレア&ラスティ・オーナー夫妻
- ③ 元ボランティア・インターン・卒業生が集合

北米で育む 新たなつながり

国際関係報告



ジャック・リクテン
国際関係課

2023年は50周年に焦点を当てましたが、2024年は新旧の支援者との交流に努め、アメリカにも赴きました。

旅の中心には、アジア学院北米後援会（AFARI）主催のイベントがありました。学院の元ボランティア、クレア&ラスティ・オーナー夫妻の農園を会場とし、持続可能な農業とサーバント・リーダーシップに関心のある新しい方々と旧知の方々と、合わせて25名が参加しました。また、ウィルミントン大学を訪れ、農学部（College of Agriculture）の学生に平和と土のつながりについて教える機会もありました。

創立50年を経て、歩み続けるにあたり、私たちは財政的な課題に備える必要があります。アジア学院は、さまざまな教会や宣教団体からの支援に恵まれてきましたが、規模が縮小している団体もあるため、いつまでも同じ資金に頼ることができない現実があります。

皆さまの研修プログラムへの継続的なご支援に、心より感謝いたします。農村リーダーの国際的なコミュニティの、より強く、深く、広範なネットワーク構築のために、引き続きご協力をお願いいたします。

つながりと共感でつくる未来

国内支援者サポート報告



井澤 皓
募金・国内事業課
支援者サポート

皆 さまのご支援のおかげで、アジア学院は共に生き、共に学び、土の上に立ち平和を築くという想いの下で、アジアやアフリカから来る農村リーダーたちの研修を行うことができています。

コロナ禍が落ち着き再始動した「西日本キャラバン」では3県18ヶ所を訪問し、ミャンマーから来た研究科生ティティさんが卒業後に現場で感じた想いを直接伝えました。アジア学院職員による講演やオンラインのセッションの依頼も相次ぎ、たくさんの方々が学院の伝える価値に触れたいと願ってくださることを感じました。

2024年度初めて試みた、クリスマスやイースターなどの節目に合わせたキャンペーンでは、ソーシャルメディアを通じて、学院の取り組みや卒業生の活躍をより多くの方に伝えてご参加いただく機会として特設サイトを設けました。皆さまがこの輪に加わり、共に未来への一步を踏み出してくださっていることに、深い感謝の気持ちを抱いております。これからも、どうぞ温かいご支援とご協力をよろしくお願いいたします。



関西学院大学の学生たちと（西日本キャラバン）



研究科生のティティさん（左）の焼き菓子プロジェクト

「食べて」支える 持続可能な学び

販売報告



佐藤 裕美
募金・国内事業課
販売

お 米や卵、豚肉は食卓でも主食や主菜として食卓に欠かせない農産物ですが、収入を生み出すという点でも重要な役割を果たしています。これら農産物をご購入くださっている方々のフードライフへの共感とアジア学院を支援したいというお気持ちが販売活動の成果に大きく寄与していますが、職員の異動やそれを考慮した作付け計画の結果、農産物の総量が例年よりやや減産となり、総売上額に反映されることとなりました。

一方でプラスチックの使用量を削減するため卵容器はお客様にご持参いただいたり、豚枝肉の解体を学院内で実施するなど、コストカットやスキルアップを意識した取り組みを行いました。また冬期には研究科生への食品加工実習を実施しました。焼き菓子の製造や収支計算、イベントや学院内ショップでの販売を通し、自国で地域の人々と共に活用できることを見据えた実践的な学習機会となりました。

2024年度売上ベスト5商品

1位	豚肉	2,506,561円 / 1,500kg (25頭分)
2位	卵	2,125,382円 / 約61,000個
3位	にんじんジュース	1,895,850円 / 約4,200本
4位	米	1,586,410円 / 2.4t
5位	クッキー	1,573,860円 / 約4,200袋

卒業生とのつながり

教務課 卒業生アウトリーチ

卒業生を訪ねる

卒業生アウトリーチ報告



スティーブン・カッティング
卒業生アウトリーチ

今年、私は、ザンビア、マラウイ、インドで合計 37 名の卒業生を訪ねる機会を得ました。旅の目的は、卒業生が働くコミュニティの美しさと苦悩を目の当たりにし、理解を深めることでした。

卒業生がどのように人々と関わっているのか、そしてアジア学院の研修をどのように母国で実践しているのかを知りたいと思いました。これは、カリキュラムを草の根の農村リーダーたちのニーズに合ったものに保ち、コミュニティに奉仕するリーダーを育成するというアジア学院の使命を確実に果たすために極めて重要なことだと感じます。民族や文化の複雑な背景を学ぶ最良の手段は、そこに身を置き、料理を食べながら会話をしたり、景色を眺めながら長時間車で旅をしたりすることです。このような個人的な交流は、アジア学院と卒業生たちとの関係を深め、地域全体の卒業生間のネットワークを強固にします。さらに、学生の「卒業後の姿」を知ることは、日本にいるスタッフやボランティアに活力を与え、アジア学院がこの世界で行っていることは素晴らしいことなのだという感動を与えてくれるのです。

今回の旅から生まれた数多くのストーリーのうちの 2 つを紹介します。



卒業生の足跡

「アジア学院は私に自信と、有機農業に関する多くの知識を与えてくれました。私は自分のコミュニティの人々を助けたい、良い生活をしてほしいと心から思っています。」

彼を訪ねれば、おそらくトレッキングに誘ってくれるでしょう。誘いに乗れば、雪に覆われたヒマラヤ山脈の絶景を眺めながら、山歩き以上の体験ができることは間違いありません。それは彼の人生をめぐり、農村におけるリーダーシップの教訓を学ぶ旅でもあります。

アジア学院でシンさんと呼ばれていた彼は、42 年間にわたり、この険しい山道に足跡を残してきました。彼はすべての村と家族について熟知しています。ある家に着くと、彼は住人の名を呼び、声をかけます。住人はお茶を淹れて彼を歓迎し、彼はバッグからバナナやビスケットを取り出して、分け合いながら長い話をします。

彼は、「(自身が現代表を務めるマスーリ村開発委員会) 村に水道管を建設している間、この家で寝泊まりしていたんだ」とか、「24 年前に (同団体が) 山の子どもたちのために建設した学校を、この家の子どもたちも卒業したんだ」などと話してくれるかもしれません。女性たちの自助グループや、彼女たちが有機農業の訓練を受け、今では農産物を売って生計を立てていることについても、きっと話してくれるでしょう。トレッキングを終える頃には、きっとあなたも、この山で彼が触れなかった魂は存在しないと感じるはずです。

インド



マラウイ

(写真)

- ① リガンガ村の人々による歓迎の歌と踊り
- ② 村人が作ったモリンガの石鹸
- ③ キャサリンとスティーブン



自給自足の考え方

「アジア学院でやっていたように、私は人々にフードライフ・ワークを教えています。」

紙くずを丸めて水に浸し、天日で乾かすと、1時間燃やせる燃料になることをご存知ですか？1時間あれば、ひと鍋のサツマイモを十分に茹でることができます。マラウイのリガンガ村の人々はこのことをよく知っています。彼女たちはまた、モリンガの粉を染み込ませた石鹸の作り方や、それが皮膚病の治療に良いことも知っています。さらに村の奥へ進むと、堆肥を施した裏庭や、暑い日差しが家々に降り注ぐのを遮る、薬効を持つ背の高い木々を目にすることができます。

これらはすべて、人々の自発的な取り組みから生まれたものです。リガンガ村は、キャサリンがワールド・リリーフ・インターナショナルのプロジェクト・オフィサーとして働いている102の村のひとつに過ぎません。彼女の目的は、「人々を依存から自立へと導くこと」で、各家庭を訪問し、公衆衛生やビジネス、また庭の畑や鶏、ヤギ、鳩などの小さな家畜を使った総合的な家庭農業の方法について教えています。他の村も同様に前進しているのであれば、マラウイの農村は順調に自立への道を歩んでいると言っても過言ではありません。



スーレンダー・シン (1989年卒、1996年研究科生)



- ① 晴れた日にはヒマラヤ山脈が見える
- ② 村人たちと談笑するスーレンダー
- ③ スーレンダーと牛の干し草
- ④ スーレンダーが引いた水道



会計報告

Finances

貸借対照表

資産の部	2023 年度末	2024 年度末
流動資産	59,390,944	27,478,448
固定資産	698,406,858	685,323,401
有形固定資産	652,703,863	619,597,472
特定資産	45,307,465	65,330,299
その他の固定資産	393,480	395,630
資産の部合計	757,797,802	712,801,849
負債の部		
流動負債	49,011,296	40,756,341
固定負債	132,136,990	125,753,406
負債の部合計	181,148,286	166,509,747
基本金の部		
基本金の部合計	1,148,559,948	1,156,502,190
純資産の部		
翌年度繰越収支差額	-571,910,432	-610,210,088
純資産の部合計	576,649,516	546,292,102
負債及び純資産の部合計	757,797,802	712,801,849

資金収支

前年度繰越支払資金	50,051,897
翌年度繰越支払資金	20,357,033

詳しくはアジア学院ウェブサイトをご覧ください
<https://ari.ac.jp/downloads/>

監査報告

学校法人アジア学院寄付行為第7条の規定に基づき、
2024年度の事業および会計の状況について監査した結果、
適性に執行されたものと認めます。

2025年5月7日
学校法人アジア学院

大久保知宏

監事：大久保知宏

村田 榮

監事：村田榮

事業活動収支

事業活動収入の部	2024 年度予算	2024 年度決算
教育活動収入		
学生生徒等納付金	39,402,462	39,823,812
手数料収入	54,000	24,000
寄付金	83,320,309	84,011,258
経常費等補助金	1,000,000	3,040,000
付随事業収入	26,859,000	28,168,152
雑収入	6,424,000	7,799,112
教育活動収入計	157,059,771	162,866,334
教育活動外収入計	0	36,361
特別収入計	0	11,659
事業活動収入計	157,059,771	162,914,354
事業活動支出の部		
教育活動支出		
人件費支出	95,893,648	89,915,144
教育研究費	35,217,031	34,786,378
管理経費	69,560,308	67,636,078
減価償却費	43,577,884	43,941,8600
教育活動支出計	200,670,987	192,337,600
教育活動外支出計	966,668	934,168
特別支出計	0	0
事業活動支出計	201,637,655	193,271,768

50周年記念事業関連収支

収入の部	2024 年度決算
前年度50周年記念事業収支差額	15,288,026
50周年記念事業特別寄付	9,100,000
合計	24,388,026
支出の部	
50周年記念事業特別支出	
ホールキャンパスプロジェクト（薪ストーブ設置）	544,660
合計	544,660
収支差額	23,843,366

貸借対照表

2024 年度末時点での資産は約 7 億 1,280 万円で、前年度よりも約 4,500 万円（内減価償却費約 4,390 万円）減少しました。しかし将来への備えとしての退職給与引当特定資産 300 万円、施設設備維持引当特定資産約 236 万円、合計約 536 万円の積立では例年通り継続することができました。

一方負債の部は約 1 億 6,650 万円で、前年度よりも約 1,460 万円減少しています。これは借入金返済（680 万円）と学校債償還（100 万円）の合計 780 万円の返済や、前受金の減少（約 998 万円）によるものです。

資金収支

2024 年度末の翌年度繰越支払資金は 20,357,033 円でした。年度当初よりも約 2,970 万円減となっていますが、減額分の内約 2,000 万円は一般会計から特定資産への繰り入れであり（内 14,743,366 円は 50 周年事業引当特定資産）、700 万円は土地の購入によるものです。

その他、教育研究用機器備品としては、農業管理機（糞摺り機、自動選別計量器、堆肥散布機）の入れ替えに約 162 万円、パソコン購入（約 83 万円）等の支出があり、管理用機器備品として電話機の増設（約 11 万円）、50 周年事業の一環として薪ストーブ設置（約 54 万円）等の支出がありました。

事業活動収支

事業活動収入 約 1 億 6,300 万円（予算達成率 104%、前年比 97%）

●学生生徒納付金：約 3,980 万円（予算達成率 101%、前年度比 108%）

日本人学生 1 名及び組織強化プログラム研修生 1 名の学費の他、国内 11 団体、海外 4 団体、国内 2 個人からの学費指定納付金がありました。

●寄付金収入：約 8,400 万円（予算達成率 101%、前年度比 89%）

国内寄付：約 2,770 万円

海外寄付：約 2,150 万円（アジア学院北米後援会含む）

その他補助金：約 2,430 万円

特別寄付：約 1,055 万円（一般 136 万円／50 周年約 920 万円）

●付随事業収入：約 2,820 万円（予算達成率 105%、前年度比 98%）

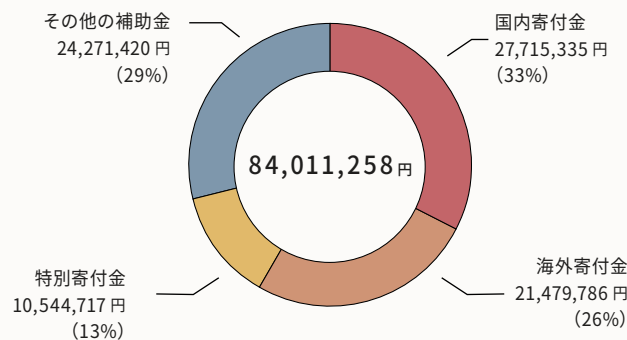
アジア学院企画及びコーディネーション収入、フードプログラム収入共に過去最高収入となりました。スタディキャンプやプログラムには国内外から 47 団体 533 人の参加があり、企画力、実行力とも向上し、参加者や宿泊客の満足度も上がっています。販売は販売用豚肉の供給が不安定であったこともあり、収入の伸び悩みがありました。

事業活動支出 約 1 億 9,340 万円（予算達成率 96%、前年比 98%）

支出の部は予算よりも約 830 万円抑えて終わることができました。

採用予定の職員の来日遅延、予備費の未消化をはじめ、各部門での経費削減の努力の成果でもあります。

ご支援頂きました皆さまに心から御礼申し上げますと共に、これからも尚ご指導ご支援を頂きたいお願い申し上げます。



2024 年度寄付金額

10 万円以上のご寄付をくださった団体（順不同）

【国内】（一財）新倉会、東京南ロータリークラブ、（一財）JELA、日本基督教団、（カ）聖心会、（カ）聖コロンバン会、日本キリスト教協議会、（一財）アジア農村交流協会、（公財）あしぎん国際交流財団、全国友の会中央部、（公財）全国友の会振興財団、東京霞ヶ関ライオンズクラブ、ワールドファミリー基金、（医社）サマリヤ会、立正佼成会一食平和基金、学生キリスト教友愛会、松島農園、高法寺、スコレ家庭教育振興協会、全国教会婦人会連合、（公財）森村豊明会、（学）女子学院、青山学院中高等

部、（学）国際基督教大学高等学校、（学）明治学院、（カ）大田原教会、（公）聖三一教会、東京ユニオンチャーチ、国際基督教大学教会、（公）聖オルバン教会、（教）西那須野教会、（カ）煉獄援助修道会、神戸ユニオンチャーチ、（カ）煉獄援助修道会、横浜ユニオン教会、（教）中目黒教会
【海外】連帯のための宣教会（EMS）、アメリカ福音ルーテル教会、共同世界宣教（米国合同教会・キリスト教会共同世界宣教）、カナダ合同教会、合同メソジスト教会世界宣教、アジア学院北米後援会（AFARI）

講義一覧（＊特別講師）

指導者論

アジア学院の指導者論
サーバント・リーダーシップ
アジア学院の歴史と建学の精神
参加型学習行動法
自律学習
プレゼンテーション技術
時間管理
ファシリテーション技術
相互フィードバック技術
宗教と農村生活
報告書作成指導
農村指導者論
衛生管理と女性の健康
平和と和解
ファンドレイジング・
尊厳ワークショップ
足尾銅山鉱毒事件と田中正造
非暴力コミュニケーション
コーチング
障がい者の農業

荒川 朋子
荒川 朋子、大柳 由紀子
荒川 朋子
荒川 朋子、大柳 由紀子、阿部・チャタジー・モノシ
大柳 由紀子、阿部・チャタジー・モノシ
大柳 由紀子、阿部・チャタジー・モノシ、金森 郁美
ティモティ・Ｂ・アパウ
大柳 由紀子、阿部・チャタジー・モノシ
阿部・チャタジー・モノシ
ジョナサン・マッカーリー、ティモティ・Ｂ・アパウ
阿部・チャタジー・モノシ
スティーブン・カッティング
キャシー・フローディ
ホームズ 恵子＊（アガベ・ワールド）
シェリー・デレオン＊（アジア学院北米後援会）
ジェフリー・メンセンディーク＊（桜美林大学）
坂原 辰男＊（元 NPO 田中正造大学）
栗山 のぞみ＊、西東 万里＊（NVC ジャパンネットワーク）
森川 有理＊（グローバルセッション代表）
ネッド・ストローラー＊（AgrAbility、米国）

持続可能な農業・技術

有機農業
野菜・作物概論
稲作技術
畜産概論
養鶏技術
家畜衛生と疾病管理
化学農業の危険性
熱帯における自然農業
生産者と消費者の提携
パイオガスワークショップ
農業技術実習
畜産技術実習
肉加工実習
アグロフォレストリー
環境再生型農業の原則と実践
小規模農家の課題
農民による自然再生

櫻井 将伸、荒川 治
櫻井 将伸、荒川 治
荒川治
櫻井 将伸、阿部・チャタジー・モノシ
ティモティ・Ｂ・アパウ
ティモティ・Ｂ・アパウ
櫻井 将伸
村上 真平＊（自給自足カレッジ監修）
戸松 礼菜＊（帰農志塾）
桑原 衛＊（NPOふうど）
荒川 治、櫻井 将伸
ティモティ・Ｂ・アパウ
櫻井 将伸、小出 秀夫＊（ノイ・フランク那須）
オルデンドウ・シェカー・チャタジー＊（76 年卒・インド）
オルデンドウ・シェカー・チャタジー＊（76 年卒・インド）
パトリック・トレイル＊（ECHO アジア、タイ）
トニー・リナウド＊（ワールド・ビジョン・オーストラリア）

開発論

栄養概論
環境と開発
ジェンダー論
ローカライゼーション
共助組合論
那須疎水と西那須野開拓の歴史
気候変動教育
日本の有機農業運動
日本の差別問題
エコロジー・天然資源教育

金森 郁美
佐藤 真久＊（東京都市大学）、大柳 由紀子
荒川 朋子
鎌田 陽司＊（NPO 法人 懐かしい未来）
大柳 由紀子
大柳 由紀子
永田 佳之＊（聖心女子大学）
大柳 由紀子
大柳 由紀子、阿部・チャタジー・モノシ
阿部・チャタジー・公子＊（開発調査コミュニケーションセンター
（DRCSC）、インド）
阿部・チャタジー・モノシ

卒業生セミナー

組織的持続可能性

ウェスリー・リング＊（93 年卒、99 年 TA・インドネシア）、
リディア・ナイバホ＊（11 年卒・インドネシア）

日本語・日本文化

小倉 恭子＊、荒川 千衣子＊

有機農業実習

野菜作物：ぼかし肥作り、堆肥作り、土着菌の採取と活用、
天恵緑汁、魚のアミノ酸資材、水溶性カルシウム、自然
農薬、粃殻くん炭、自家採種、練り床を利用した苗作り
畜産：養豚（人工授精、出産、去勢）、養鶏（育雛、人
工ふ化）、家畜衛生、飼料配合、発酵飼料作り、発酵床
式畜舎
肉加工：ソーセージ、ハム、ジャーキー

フードライフ管理活動

グループによる農場管理（野菜作物栽培および畜産管理）
フードライフワーク（自給自足のための農作業および
給食準備）
グループリーダーシステム

その他の研修

コミュニティ・ワーク（田植え、稲刈り、森林管理など）、
内的成長を促す活動（朝の集会、コンサルテーション、
作文集、振り返りの日）、口頭発表、収穫感謝の日、
国際交流プログラム、見学研修、農村地域研修旅行、
西日本研修旅行など

研修・交流でお世話になった方々

（敬称略、順不同）

農業関連見学・研修先

【栃木県】帰農志塾、まんまる農園、ドンカメ、陽だまり農場、
古谷農産、民間稲作研究所
【埼玉県】金子宗郎、田下隆一、桑原衛
【山形県置賜地区】渡部務・美佐子、菅野芳秀、長井市
レインボープラン推進協議会、基督教独立学園高校、し
らたかソラの会、高島共生塾（秋津ミチ子）、JA山形お
きたま農業組合、川西町役場（原田俊二元町長）
【山形県庄内地区】加藤鉦一、相馬一広、志藤正一、佐
藤直樹、庄内協同ファーム、JA庄内たがわ営農農政課、
荘内教会保育園（矢沢俊彦）、鶴岡市藤島庁舎エコタウン
室、小野寺喜作、鶴岡市立農業経営者育成学校 SEADS
【岩手県】酒匂徹

見学先・交流団体

【栃木県】足尾銅山鉱毒事件学習（旧松木村跡、足尾製
錬所跡）、渡瀬川遊水池、宇都宮北高校、大田原高校、
西那須野幼稚園、なす誼友会、津軽会
【東京都】日本基督教団全国婦人会連合世界教会運動委
員会、日本バプテスト同盟全国女性会

西日本研修旅行

【東京都】農村伝道神学校【静岡県】聖隷クリストファー中・
高等学校、聖隷学園、山中忍
【三重県】愛農学園農業高校【大阪府】大阪 YMCA、NPO 釜ヶ
崎支援機構、野宿者ネットワーク、関西沖縄文庫、コリ
ア NGO センター、（教）希望ヶ丘教会【広島県】広島平和
記念資料館【山口県】梅光学院大学【熊本県】大澤菜穂子、
からたち、水俣病歴史考証館、（一般）きぼう・未来・水俣、
吉本哲郎

職員

荒川 朋子	校長
荒川 治	副校長、教務部長、フードライフ課（農場）
大柳 由紀子	副校長、教務補佐
佐久間 郁・ヴェロ	事務局長（総務課長）
阿部・チャタジー・マノシ	教務主任（教務課長）
篠田 快	教務課（学生募集）
キャシー・フローディ	教務課（学生募集）
スティーブン・カッティング	教務課（卒業生アウトリーチ）
田仲 順子	教務課（図書）
ジョエラ・ラナイヴォソン （2025年1月～）	教務課（共同体生活）
ティモティ・B・アパウ	チャブレン、教務課（共同体生活）、フードライフ課（農場）
ジョナサン・マッカーリー	チャブレン、教務課（共同体生活）
マッカーリー 里美	教務課（共同体生活）
櫻井 将伸	農場長（フードライフ課長）
岡田 英里	フードライフ課（農場）
ソー・マナー・シェイ	フードライフ課（農場）
ニコラス・タフヤン（8月～）	フードライフ課（農場）
金森 郁美	フードライフ課（FEAST〔給食・食育〕）
藤吉 求理子	フードライフ課（FEAST〔給食・食育〕）
江村 悠子	総務課（総務補佐・支援者サポート）
杉崎 由佳	総務課（会計）
安藤 香	総務課（庶務）
井澤 彩子（～8月）	総務課（庶務）
山下 崇	募金・国内事業課長（教育プログラム・那須セミナーハウス 主事）
井澤 酪	募金・国内事業課（支援者サポート・広報）
佐藤 裕美	募金・国内事業課（販売）
ルイパ・ヴェロ	募金・国内事業課（那須セミナーハウス補佐・管理人）
金子 麻里佳	募金・国内事業課（食品加工）
宮谷 結花	募金・国内事業課（販売・総務）
ジャック・リクテン	国際関係課
阿部 真希子	コミュニティナース、募金・国内事業課補佐

業務委託

八木沢 淳	メディアデザイン、印刷物編集
-------	----------------

ボランティア

通いボランティア

フードライフ課（農場）：黒田雪奈・貴美・楓奈、鈴木雄太、野崎孝彦、林 哲、人見恵子（兼総務）、ミシェル・ベイリー、渡部幸人
 フードライフ課（FEAST）：荒川 千衣子、エファ・シミン・ルーシ、木村 裕子、高村 京子、ラビアル・ラモン・J・エスメリオ
 募金・国内事業課（販売）：猪俣 美恵、柏谷 重明、熊見 一紀、クリスティ・アパウ、小西 恵祐、小西 小百合、杉田 万由子、並木 レベッカ、東 千尋、堀内 紀江、三宅 隆史
 総務課（営繕）：井出 幸男、清水 益夫
 総務課（庶務）：渋川 恵美

ベクレルセンター（放射能測定室）

西川 峰城、藤本 渉平（兼販売）

長期滞在ボランティア

村田 悠登、小川 仁実、リアン・トム・クリーステン、オリヴィア・ウィンターズ・マイヤーズ、ケネス・チウ（以上農場）、ジョナサン・ペンツコファー、大藪 さつき、丸山 結実子、コリアネ・ザフォラ・スタンリー、ロミーナ・メレウ（以上 FEAST、農場）、アーロン・ベアラージェ（農場、国際関係）、塚本 結基、クリスチャン・オットー（以上農場、広報）、ダニエル・ベンジャミン・アイセン、コフィ・ロマリック・アフアツチャオ、マリー・ルーシー・ブドウワン（以上 FEAST、学生募集、農場）、菊池 春香（FEAST、国内事業）、クロイ・マーガレット・ソリデイ（学生募集）、アン・コレット（FEAST、卒業生アウトリーチ）、エイミー・ザン（FEAST、国際関係）、ローレン・イレイン・レディン（国際関係）

役員

理事長

山本 俊正	元関西学院大学教授
-------	-----------

副理事長

門脇 英晴（～5月）	（株）日本総合研究所特別顧問
山根 正彦（6月～）	（学）香川栄養学園 元常務理事

理事

荒川 治（6月～）	アジア農村指導者養成専門学校副校長
荒川 朋子	アジア農村指導者養成専門学校校長
粟谷 しのぶ	弁護士・豊島総合法律事務所
後宮 敬爾	日本基督教団豊南坂教会牧師
小海 光	公益財団法人 ウェスレー財団代表理事
佐藤 範明	元ホテルサンバレー那須顧問
永田 佳之	聖心女子大学現代教養学部教育学科教授
星野 正興（～5月）	元日本基督教団愛川伝道所牧師
矢萩 栄司	日本聖公会下館聖公会牧師
山根 正彦	（学）香川栄養学園 元常務理事

監事

大久保 知宏	藤井産業（株）執行役員 総務部長
村田 榮	那須ワイズメンズクラブ

評議員

荒川 治	アジア農村指導者養成専門学校副校長
荒川 朋子	アジア農村指導者養成専門学校校長
粟谷 しのぶ	弁護士・豊島総合法律事務所
飯塚 拓也	日本基督教団関東教区宣教部委員長、 竜ヶ崎教会牧師
伊藤 幸史	カトリック新潟教区司祭
岩谷 幸子	全国友の会副代表、横浜友の会
宇野 三恵子	聖心会日本管区管区長
海老根 智仁	（株）レジェンド・パートナーズ取締役会長
大柳 由紀子	アジア農村指導者養成専門学校副校長
門脇 英晴（～5月）	（株）日本総合研究所特別顧問
菊地 功	カトリック東京大司教教区大司教
佐久間 郁・ヴェロ	（学）アジア学院事務局長
菅谷 実（6月～）	慶応義塾大学名誉教授
セラジーン・ロシート	NGO/NPO コンサルタント
千 相鉦	在日大韓基督教会札幌教会主任牧師
田口 努（6月～）	（公財）日本 YMCA 同盟代表理事・総主事
永田 佳之	聖心女子大学現代教養学部教育学科教授
潘 炯旭	日本基督教団西那須野教会牧師
星野 正興（～5月）	元日本基督教団愛川伝道所牧師
丸谷 一耕	特定非営利活動法人木野環境代表理事
山下 崇	（学）アジア学院職員
山根 正彦	（学）香川栄養学園 元常務理事
横手 仁美	セカンドハーベスト・ジャパン CEO、元国連 WFP 協会事務局長・理事

特別顧問

遠藤 抱一	元アジア学院職員
門脇 英晴（6月～）	（株）日本総合研究所特別顧問



🎓 2024 年度 卒業生 () 内は送り出し団体名

農村開発科

ナミビア
パキスタン
フィリピン
ベトナム
インド

- 1 ジョナス・ボムビリ・ンデルディラ (ナミブ砂漠環境教育基金)
- 2 ノヤン・ソヘイル (サミュエル記念財団)
- 3 リッキー・オタナ・アッタバン (ウィガン入植者多目的協同組合)
- 4 ラー・ティ・ンギン (メコン・オーガニック)
- 5 カツロウ・トビ (チザミ・バプテスト教会)
- 6 ムズィナル (チゾバ地区バプテスト教会協議会)
- 7 スシュメ・アギチャック・マラク (ハーディング・ユニバーサル・トラスト)
- 8 テケウェ・クツツォ (ザバミ・バプテスト教会)
- 9 デオ・ルトウヌウ (ワヌア・チンタリンク・セメスタ)
- 10 カデック・アグス・マハディパ (農地改革コンソーシアム)
- 11 ネルソン・イシェンゴマ (ファミリア・モジャ・サポート・イニシアティブ (ケニア))
- 12 プリンズ・イエボア (ピース・アンド・ラブ野菜栽培者協会)
- 13 ドン・バチボンゲ (平和・紛争解決基金)
- 14 サイモン・ムタンボ (チンガレ・ネノ復興開発プログラム)
- 15 ルワ・レー・ムー (レイシー・バプテスト教会委員会)
- 16 ソー・エー・ドー・ソー (シュウェジン・カレン・バプテスト連盟)
- 17 アルフレッド・ダマコ・ラミー (リベリア・ヴォインジャマ福音教会)
- 18 ジョンソン・コルヴァ・ハリス (リベリア総合的作物・害虫管理農業プログラム)
- 19 ウィリアム・ファラ・ファーマ (ペンテコスタル・ミッション・アンリミテッド)
- 20 岩本 桃子

インドネシア

ウガンダ
ガーナ
コンゴ民主共和国
マラウイ
ミャンマー

リベリア

日本

研究科

ミャンマー

- 21 ティ・ティ・ウィン

みなさまの開発途上国に 対する思いをアジア学院に 託してください！

アジア学院で学んだ卒業生たちが自らの手で、
公正かつ平和で健全なコミュニティを作って
いきます。

郵便振替

振込口座：郵便振替 00340-8-8758

口座名義：学校法人アジア学院

銀行振込

足利銀行 西那須野支店

口座番号：112403 (普通預金)

口座名義：学校法人 アジア学院

オンライン／クレジットカード



<https://ari.ac.jp/donate>